

## 病院の 実力

福井編 49

小児科医が不足する中で、どのような診療体制で子どもたちの命を守るべく取り組んでいるのか、親たちの関心は高い。小浜医師会の休日当番医制度と連携した体制をとっている若狭地方の中核病院「杉田玄白記念公立小浜病院」の診療部主任医長で小児科医の原慶和さん(40)に話を聞いた。  
(熱田純一)

公立小浜病院 原慶和 主任医長(小児科)に聞く



小浜医師会と連携した休日診療体制について語る原さん(公立小浜病院で)

### 親の安心に助言心がけ

若狭地方の小児救急は、小浜医師会の休日当番医と連携し、小児科標榜医以外の開業医が当番の日に小浜病院で診療を行っています。小浜病院の小児科の常勤は私を含めて2人で、決して恵まれた環境ではありません。夜間救急にも完全に対応しようとす

るならば、県小児科医会のプランに提示された5人が必要です。ただ、2007年に救急救命に重点的に取り組む総合診療科が設けられ、小児科についても1次処置は担当するの

で負担軽減になっています。また、小児科の心臓外来、神経外来については福井大などから月1回、専門医が来ます

今冬はインフルエンザやマイ

都府舞鶴市にある舞鶴医療センターなど他府県の専門機関での治療をお願いしています。

患者としては、胃腸かぜ、気管支炎、肺炎、ぜんそく発作、熱性けいれんなどで来院するケースが多くみられます。

今冬はインフルエンザやマイ

親御さんが心配する気持ち

ので、セカンドオピニオンとして、より専門的な助言を受けられます。迅速な対応が必要な周産期医療については、重症合併のない2000gを少し下回る低体重児、感染症や呼吸障害などで治療が必要な新生児は受け入れています。重症児や1000gを下回る超早産児については、産婦人科で母胎搬送をお願いして、京

コプラズマ感染症が増えています。よく問題になるのが休日や夜間の「コンビニ受診」ですが、この地域では比較的少ないように思います。お子さんと一緒に来られるお母さん方に「こういう症状だったら翌日来ていただいても大丈夫ですよ」と、助言するように心がけています。また、保育園や母親クラブなどの講演活動でも、「3日熱が下がらなかつたら来院してください」などと症状ごとに説明しています。

はよくわかりますし、症状に応じては早急な処置が必要な場合もあります。県医師会が毎日(月)土曜午後7時~同11時、日・祝日午前9時~午後11時)行っている小児救急電話相談(0776・25・9955または#8000)で相談してから診察を受けることをおすすめします。